

2012年7月12日

歯科衛生士雇用に関する アンケートの結果について

東京の歯科医院における歯科衛生士の雇用状況を把握するため、会員アンケート調査を実施した。その結果を踏まえ、東京都などへ要請を行う予定。

実施方法・期間

方法については、ファックス登録をしている会員 3450 人に対し、ファックスを送信し回答を求めた。481 名（14%）から回答を得た。実施期間は 6 月 28 日～7 月 10 日。

年齢

平均年齢は 49.3 歳。「40 歳代」が 176 名（37%）、「50 歳代」が 151 名（31%）で大半を占めた。「30 歳代」が 69 名（14%）、「60 歳代」が 47 名（10%）であった。

性別

「男性」が 376 名（78%）、「女性」が 92 名（19%）であった。

地域

「23 区内」が 373 名（78%）、「多摩」が 92 名（19%）であった。

開業歴

「11～20 年」が 141 名（29%）、「21 年超」が 126 名（26%）、「1～5 年」が 112 名（23%）、「6～10 年」が 79 名（17%）であった。

2.先生の医院では従業員を何人雇用されていますか

• 歯科医師

歯科医師を雇用せず歯科医師単独で診療しているのが 216 名（45%）、「1 人」雇用し 2 人で診療しているのが 140 名（29%）であった。「2 人」雇用しているのが 50 名（10%）であった。

• 歯科技工士

歯科技工士を雇用していないと 438 名（91%）が答えた。「1 人」雇用が 28 名（6%）、「2 人」雇用が 9 名（2%）であった。

- **歯科衛生士**

歯科衛生士を雇用していないと 87 名 (18%) が答えた。残りの 82% が雇用している。その内訳は、「1 人」雇用が 151 名 (31%)、「2 人」雇用が 101 名 (21%)、「3 人」雇用が 70 名 (15%)、「4 人」雇用が 38 名 (8%) などであった。

- **歯科助手**

歯科助手を雇用していないと 103 名 (21%) が答えた。「1 人」雇用が 125 名 (26%)、「2 人」雇用が 109 名 (23%)、「3 人」雇用が 71 名 (15%)、「4 人」雇用が 34 名 (7%) などであった。

- **事務職員**

歯科衛生士を雇用していないと 359 名 (75%) が答えた。「1 人」雇用が 89 名 (19%)、「2 人」雇用が 20 名 (4%)、「3 人」雇用が 7 名 (1%) であった。

3. 歯科衛生士の雇用形態は？

「常勤職員のみ」が 194 名 (40%)、「常勤職員と非常勤職員の混在」が 126 名 (27%)、「非常勤職員のみ」が 66 名 (14%) であった。

クロス集計では、「開業歴」が「1 年未満」は「常勤と非常勤の混在」が比率が高く、1 年を超えると「常勤職員のみ」の比率が高くなった。

4. 歯科衛生士の 1 日当たり拘束時間と週勤務日数は？ (おおよそ・数値回答)

常勤歯科衛生士の拘束時間は「7~9 時間未満」と答えたのが 246 名 (76%) と最も多かった。週勤務日数は「5 日程度」が 282 名 (88%) と最も多かった。

非常勤歯科衛生士は「3~5 時間」が 64 名 (34%) と最も多く、「5~7 時間」55 名 (30%) が次いだ。勤務日数は 1~5 日でほぼ変わらない数値となった。

5. 歯科衛生士のどんな役割に期待していますか？ (複数回答)

「T B I など患者への指導」が 370 票 (77%) と多かったが、「患者への動機づけや情報共有」325 票 (68%)、「診療の補助」315 票 (66%)、「S P T など歯周病の管理」305 票 (63%) となった。複数回答であるため大半を回答する方が目立った。

クロス集計では、「開業歴」「1 年未満」は「患者への動機づけや情報共有」を比較的チェックを付ける比率が高くなった。

6. 歯科衛生士を雇用するメリットは？ (複数回答)

「多くの患者に対応できる」が 321 票 (67%) と最も多かった。「医療の安全性が高まる」274 票 (58%)、「医院の技術が高まる」274 票 (57%) と次いだ。

「施設基準の要件が満たせる」が 213 票 (44%) であったのは、施設基準を届け出ている医療機関数が全体からすると少ないためと思われる。「収益が高まる」

は 170 票 (34%) と低かったのは、収益を得るほどの保険点数となっていないためと思われる。

クロス集計では、「開業歴」「年代」とともに「多くの患者に対応できる」にチェックを付ける方が多かった。「開業歴」「1年未満」や「30歳以内」は「医院の技術が高まる」の比率が若干高くなった。

7. 歯科衛生士を雇い続けるためには何が必要と思いますか。(複数回答)

「歯科医院の経営安定」が 338 票 (70%) とトップであった。「院内コミュニケーション」280 票 (58%)、「衛生士のスキルアップ教育」249 票 (51%)、「福利厚生拡充」165 票 (34%)、「衛生士の拘束時間の短縮」117 票 (25%) であった。福利厚生や拘束時間の短縮はあまり考えられていないようだ。「その他」は 41 票 (9%) であり、その主な内容は「就業環境の向上」11 票、「モチベーション」「やりがい」10 票が目立った。「歯科医師の力量」「歯科衛生士数の増加」「点数増加」それぞれ 3 票であった。

クロス集計では、「開業歴」「年代」とともに「歯科医院の経営安定」にチェックを付ける方が多かった。

8. 現在、歯科衛生士を雇用していない理由は？(複数回答)

歯科衛生士を雇用していない方 87 人に聞いた(8.~10.)。「医院の収入が低い」が 59 票 (60%) と最も多く、「募集しても集まらない」が 43 票 (45%)、「診療報酬が低い」が 38 票 (38%)、「必要性を感じない」が 23 票 (24%) と続いた。「その他」が 26 票 (27%) あり、主なものは「歯科衛生士の質」に対する指摘が 12 票と目立った。「費用が高い」5 票などであった。

クロス集計では、「開業歴」「年代」とともに「医院の収入が低い」にチェックを付ける方が多かった。「1~5年」「21年超」「30歳代」「60歳代」が「募集しても集まらない」にチェックをする比率が高かった。また「1年未満」「11~20年」「30歳未満」「70歳以上」が「診療報酬が低い」が比較的高かった。

9. 歯科衛生士を雇わないことで不安を感じるがありますか。

「感じない」が 35 名 (44%)、「感じる」が 41 名 (40%) で二分した。「分からない」も 15 名 (16%) あった。

10. 歯科衛生士を雇用したいと思いますか。

「はい」が 47 名 (52%) を占めたが、「いいえ」も 26 名 (30%) あった。「分からない」が 16 名 (18%) であった。

11. 協会では都に歯科衛生士の雇用に向けた要望を行っています。よいと思われる要望項目がございませうか(複数回答)

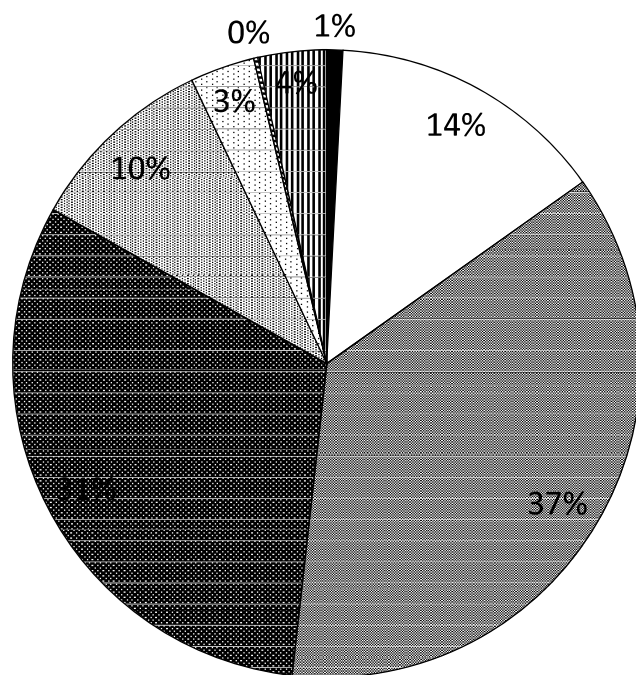
「歯科衛生士雇用時の助成金」が 268 票 (55%) と最も多く、次いで「再就

職のための育成研修事業」248 票(51%)、「歯科衛生士学校の充実」236 票(50%)と続いた。「歯科衛生士の修学資金の貸付」も 188 票(39%)であった。「その他」は 84 票(18%)あり、主なものは「2年制に戻す」など 12 票、社会や高等学校への「啓蒙」10 票、「歯科衛生士の教育」10 票、「業務範囲の拡大」9 票、「点数の増加」8 票、「歯科衛生士の就労斡旋」5 票、「医院の経営基盤の強化」4 票、「衛生士学校との連携」2 票、「補助による授業料の減額」「奨学金制度」「歯科衛生士の雇用義務付け」などであった。

クロス集計では、「開業歴」「年代」とともに「雇用時の助成金」が高いが、「1年未満」「6～10年」「30歳代」が「学校の充実」が、「21年超」「60歳代」「70歳代」が「再就職のための育成研修事業」を評価した。

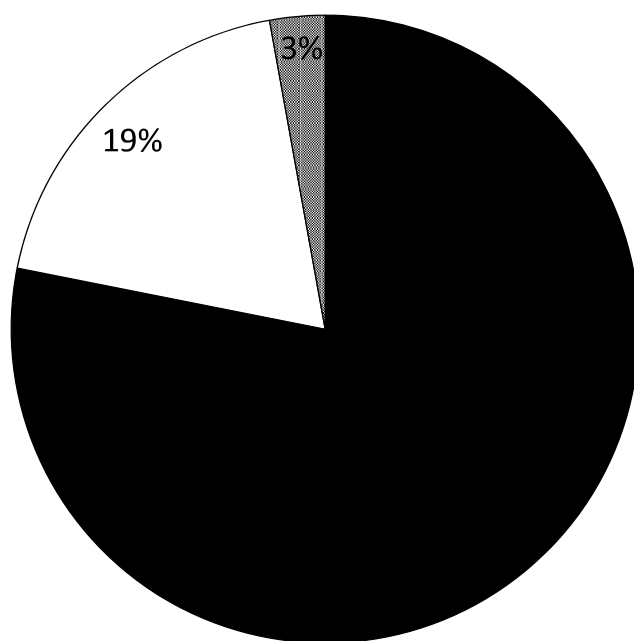
歯科衛生士数と「要望事項」では、「1人」「2人」は「助成金」が高かったが、「3人」「4人」は「再就職のための育成研修事業」が高かった。「5人」以上は回答件数が少ないので除いた。

年齢は？



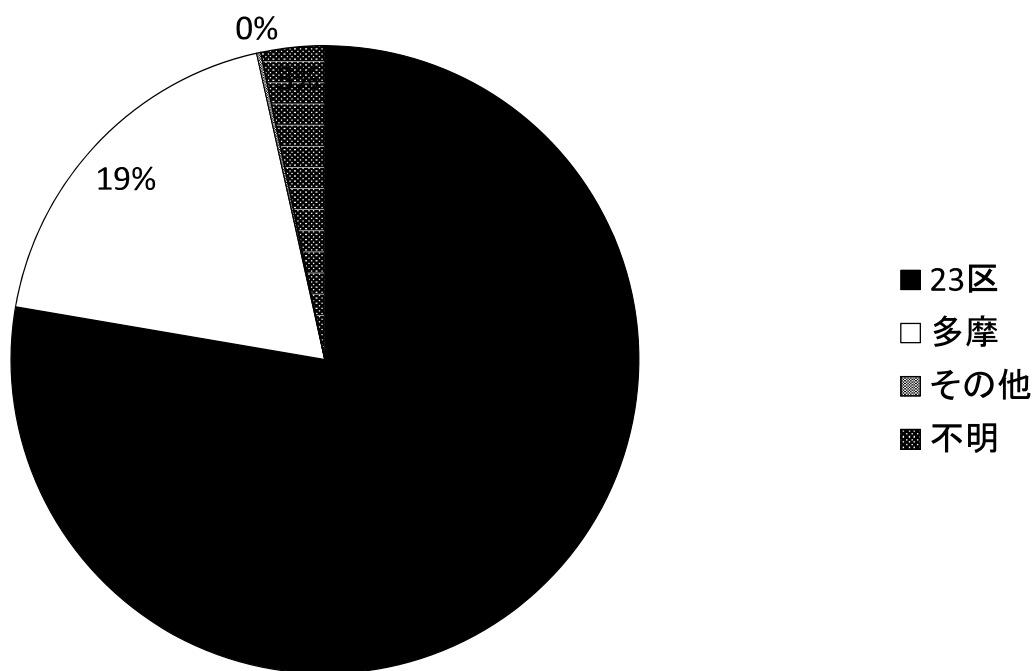
- 30代未満
- 30代
- 40代
- 50代
- 60代
- 70代
- 80以上
- 不明

性別は？

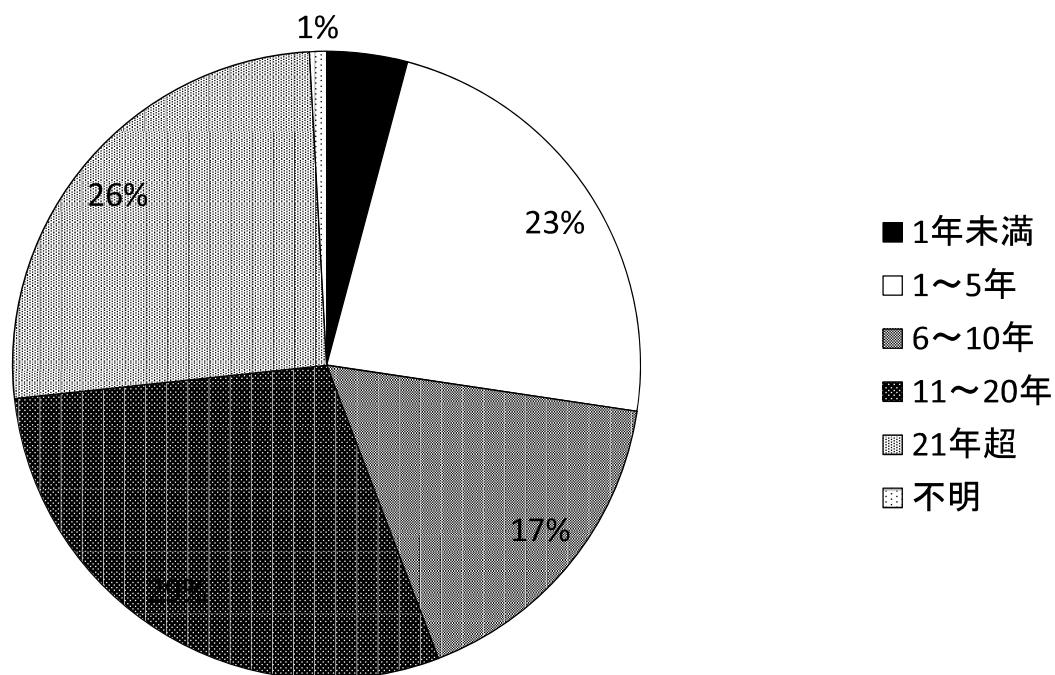


- 男性
- 女性
- 不明

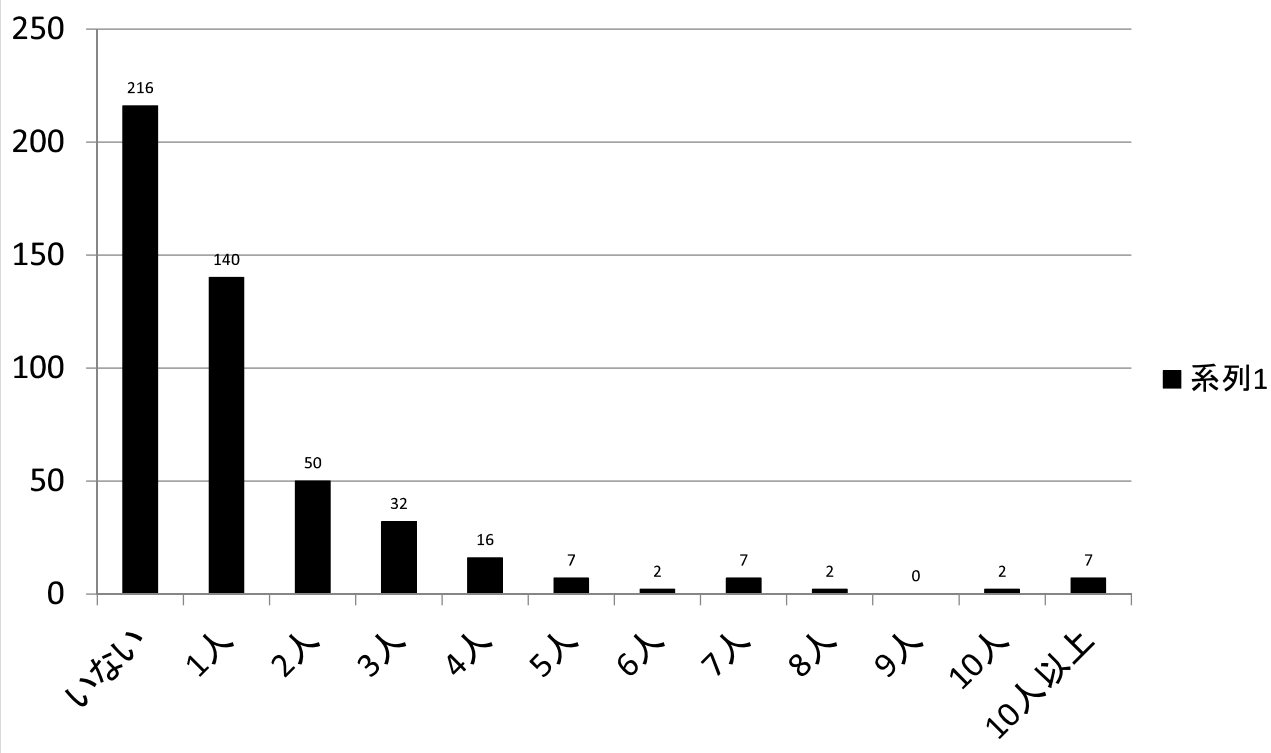
区市町村



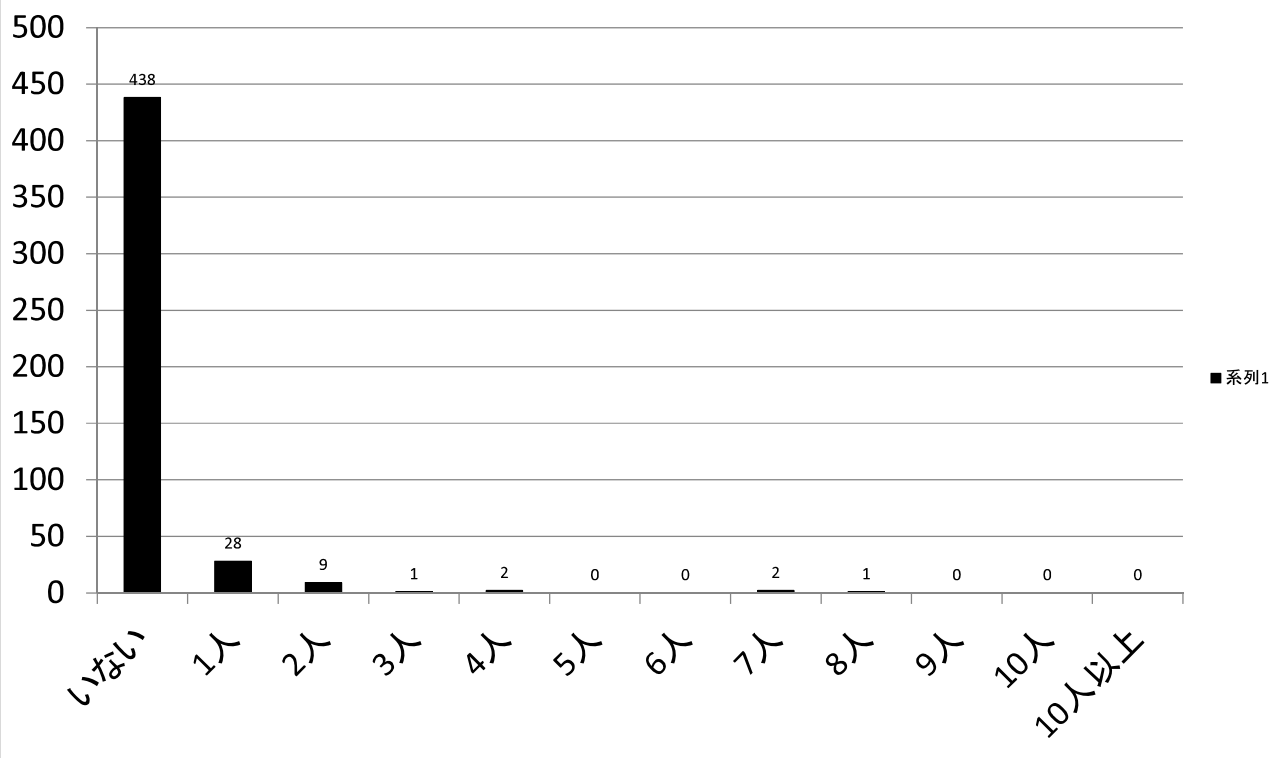
先生は現在地で、開業後何年経たちましたか



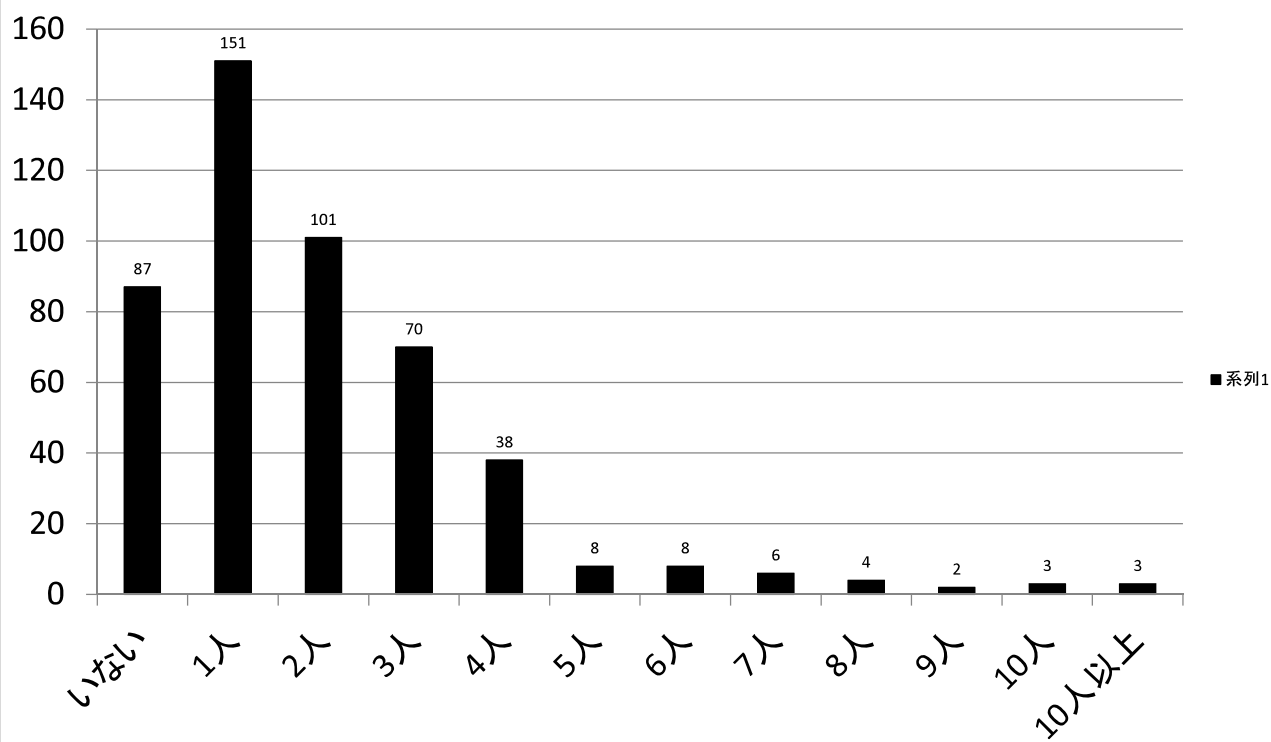
被雇用者数・歯科医師



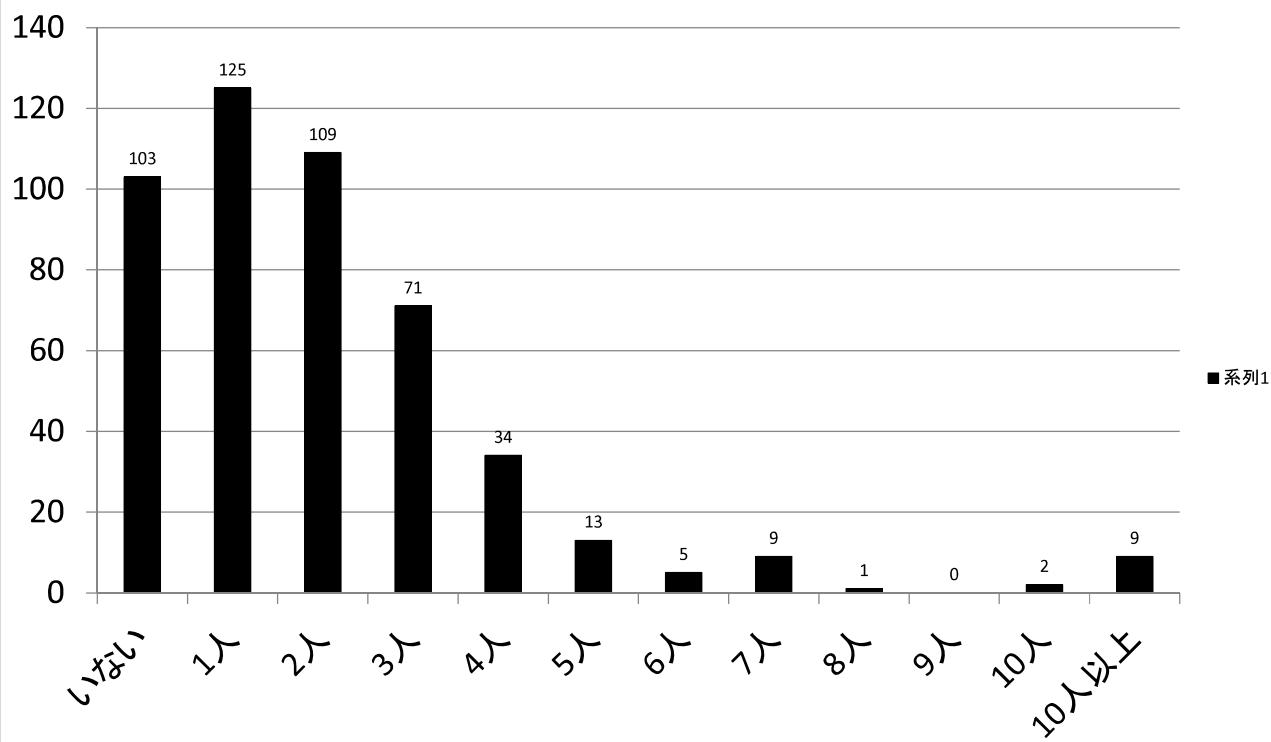
被雇用者数・歯科技工士



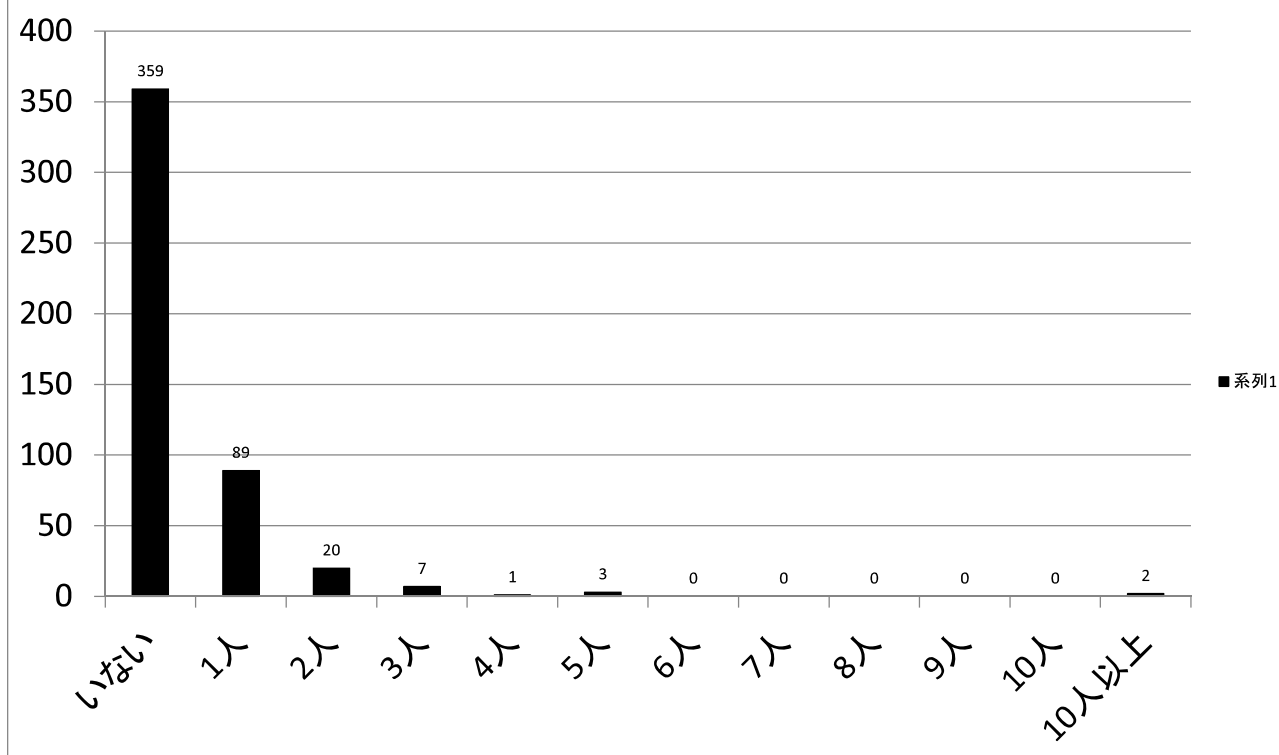
被雇用者数・歯科衛生士



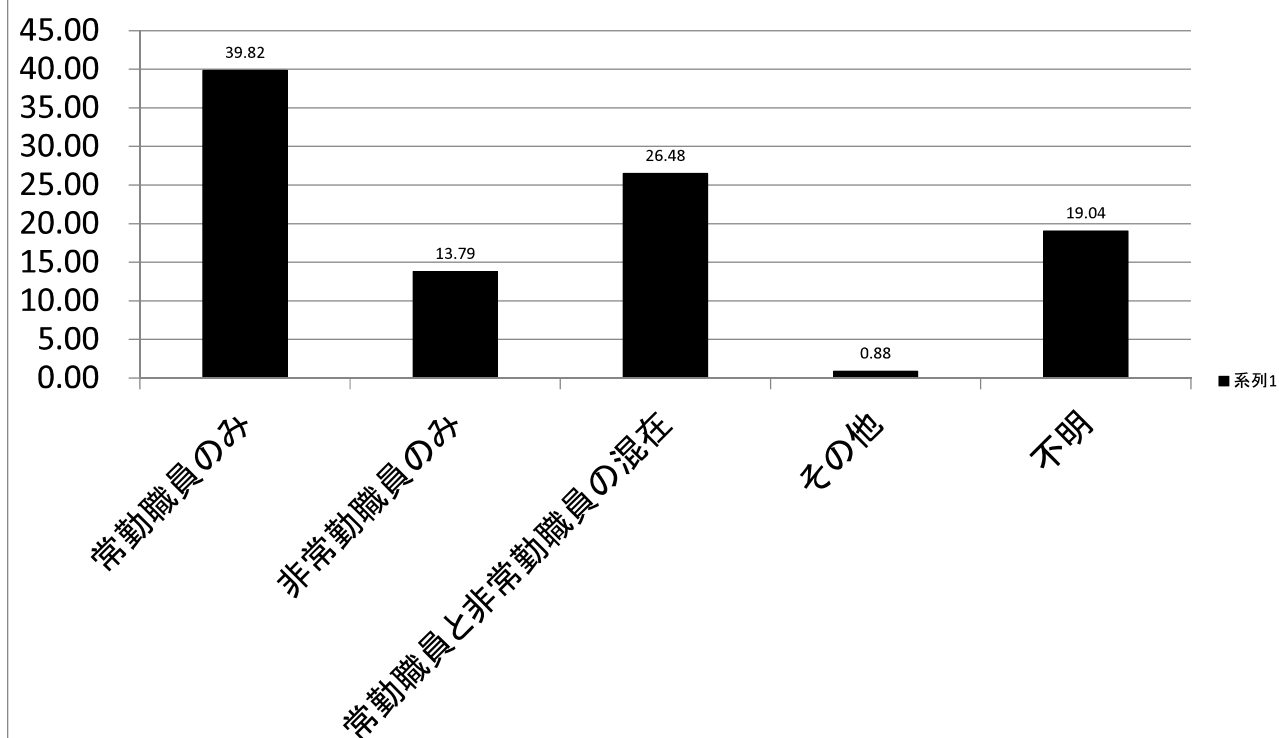
被雇用者数・歯科助手



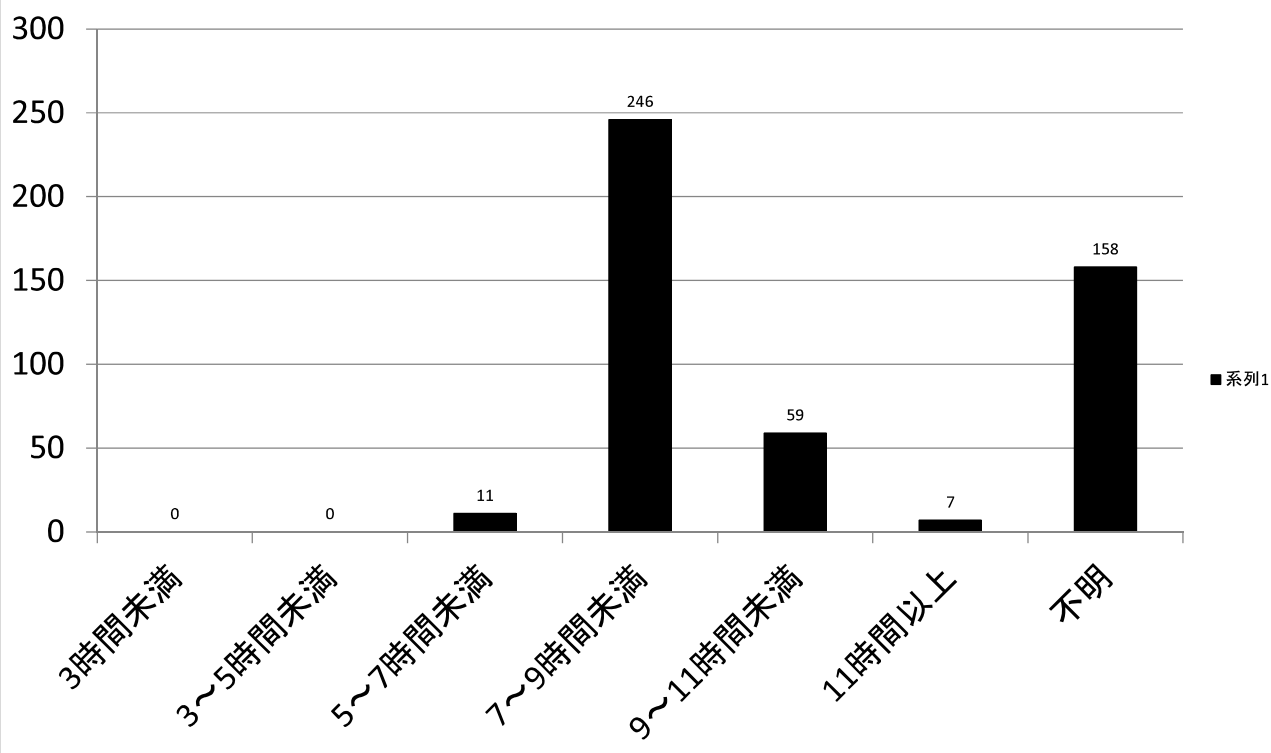
被雇用者数・事務職員



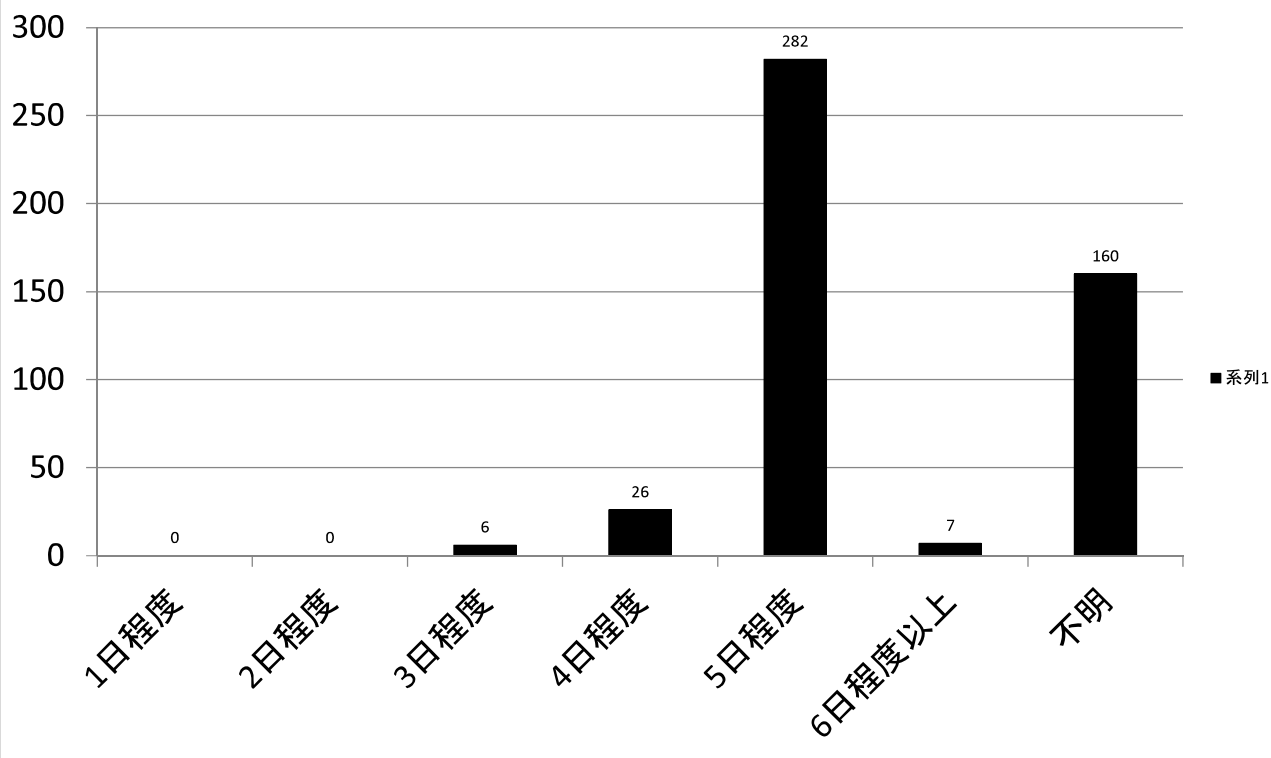
歯科衛生士の雇用形態は？



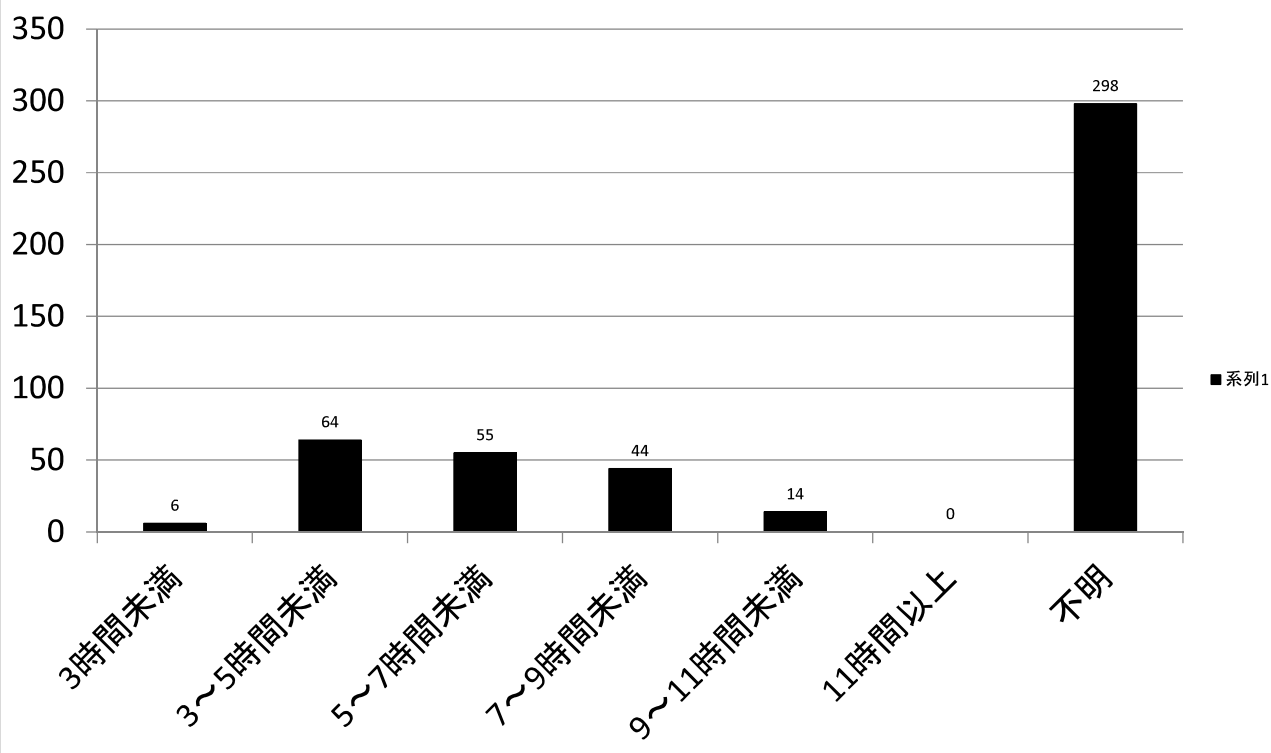
歯科衛生士(常勤)の1日当たり拘束時間



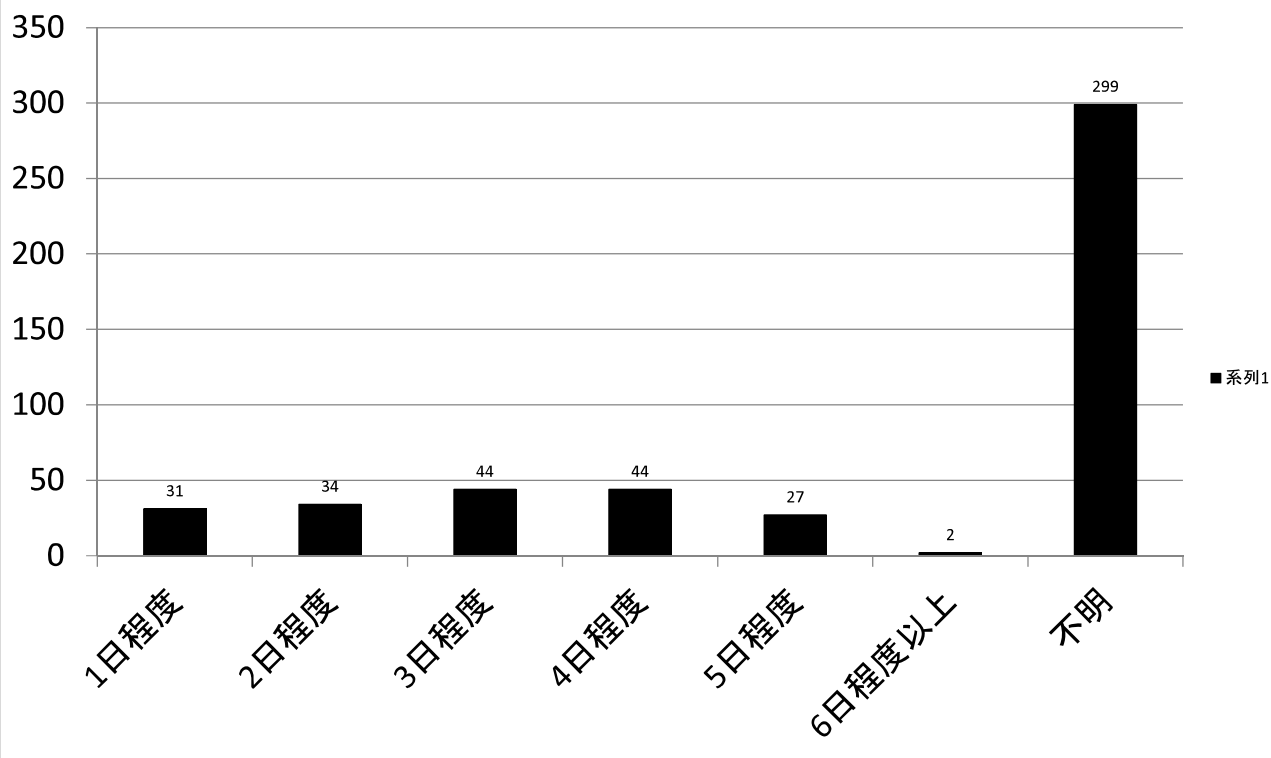
歯科衛生士(常勤)の週勤務日数



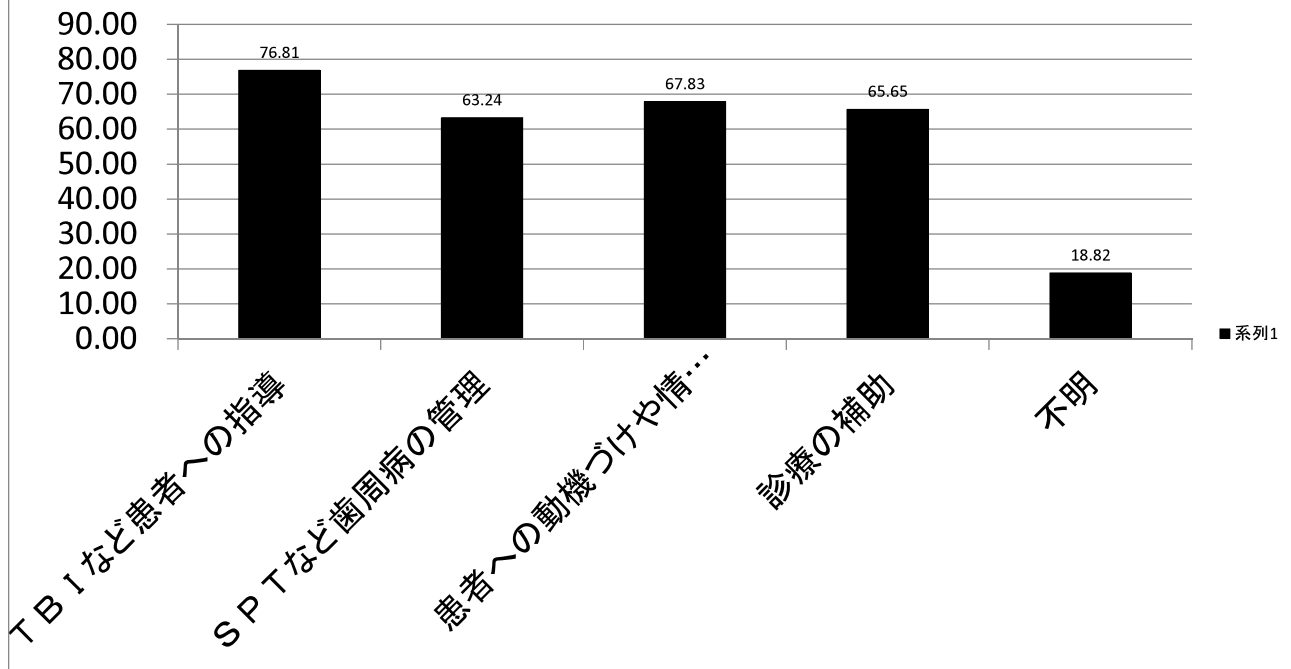
歯科衛生士(非常勤)の1日当たり拘束時間



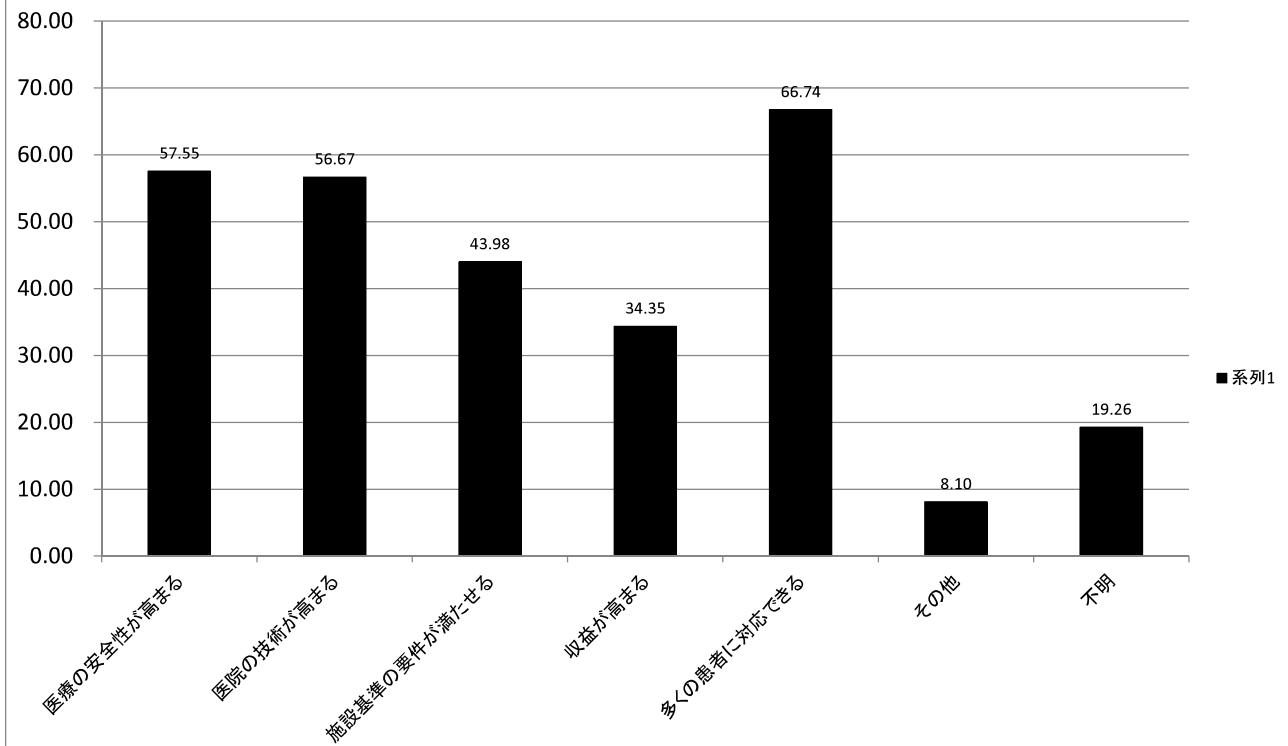
歯科衛生士(非常勤)の週勤務日数



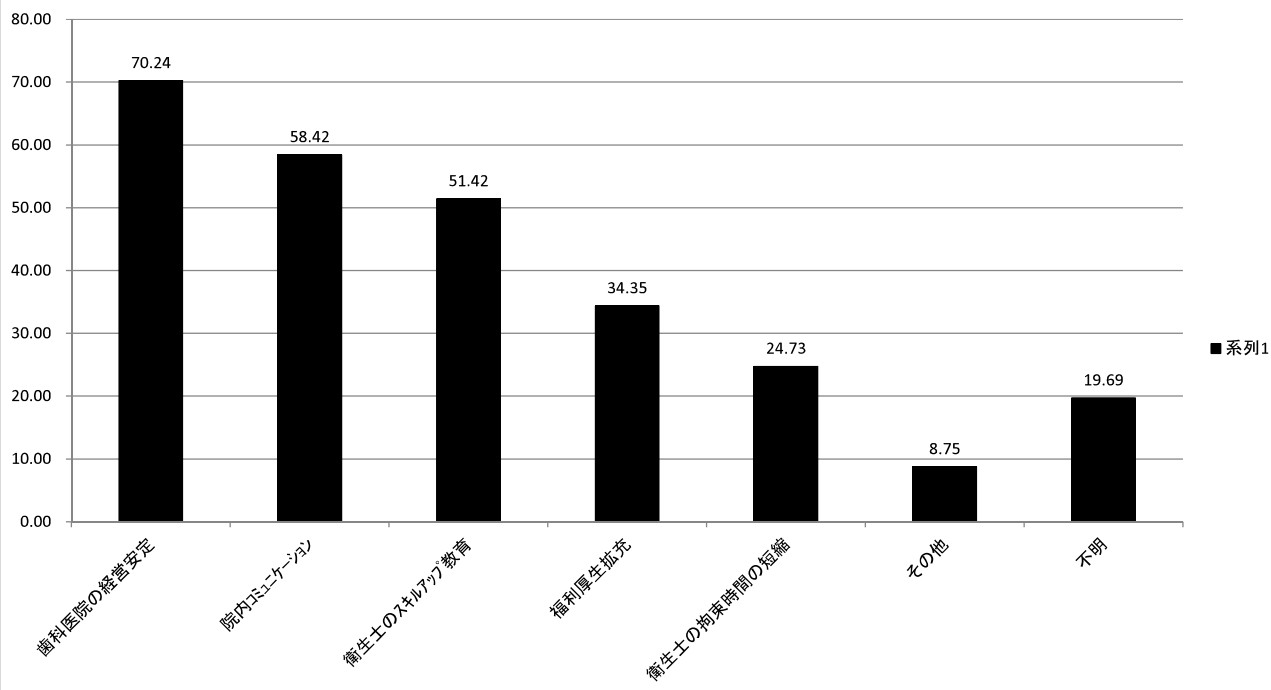
歯科衛生士のどんな役割に期待していますか



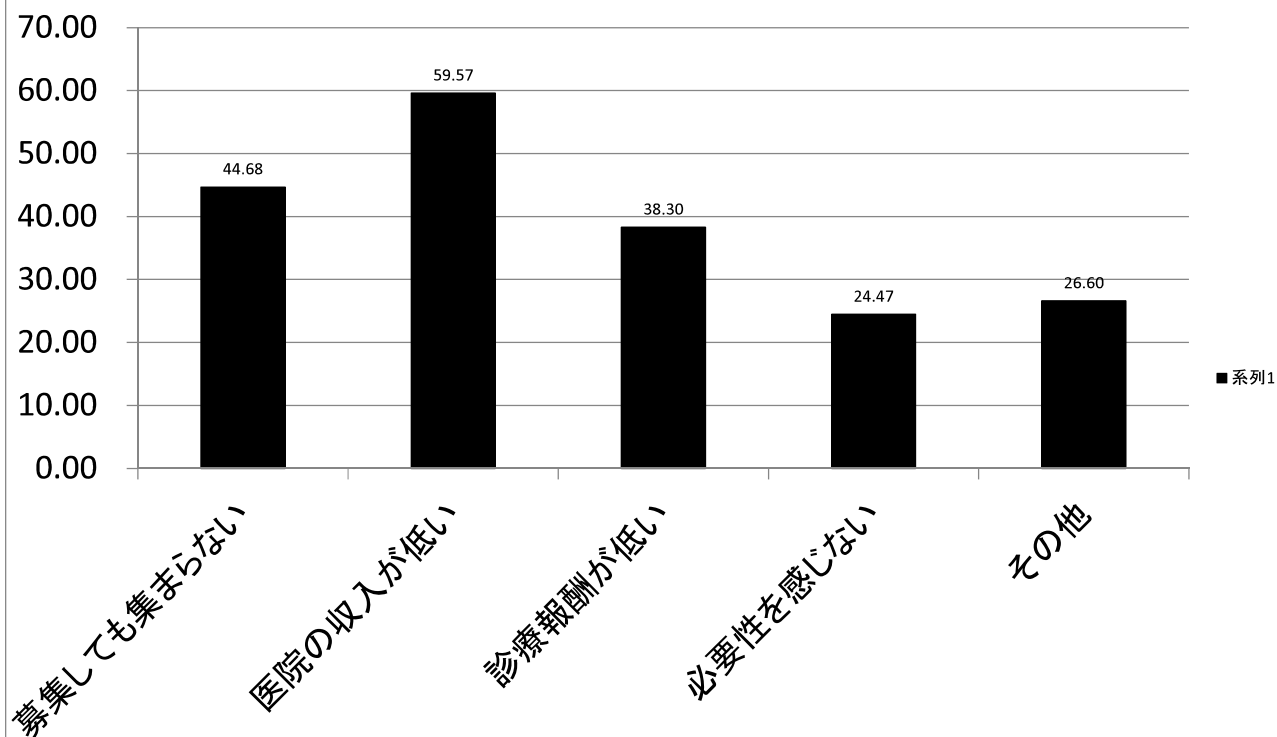
歯科衛生士を雇用するメリットは



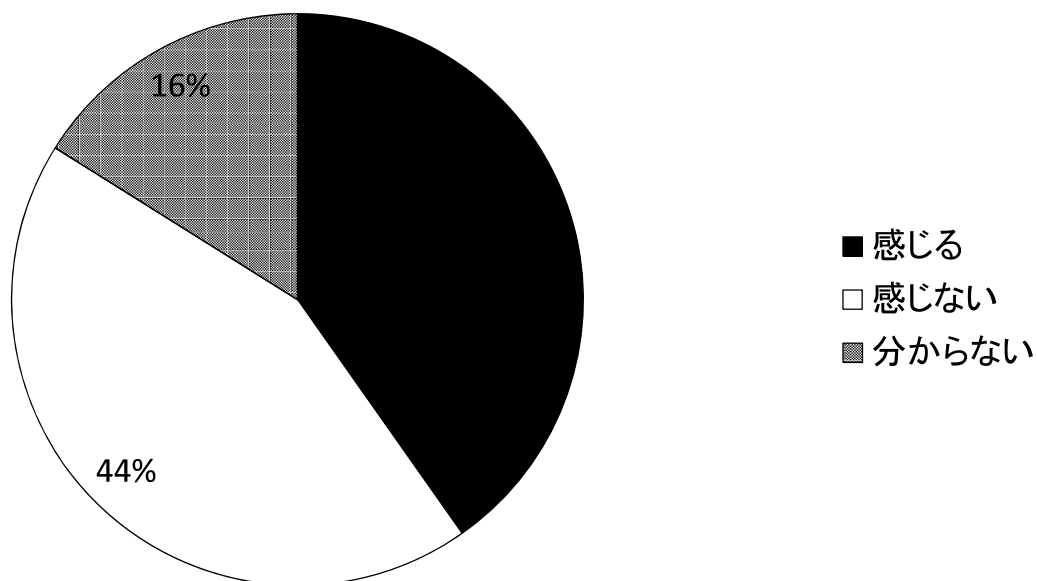
歯科衛生士を雇い続けるためには何が必要と思うか



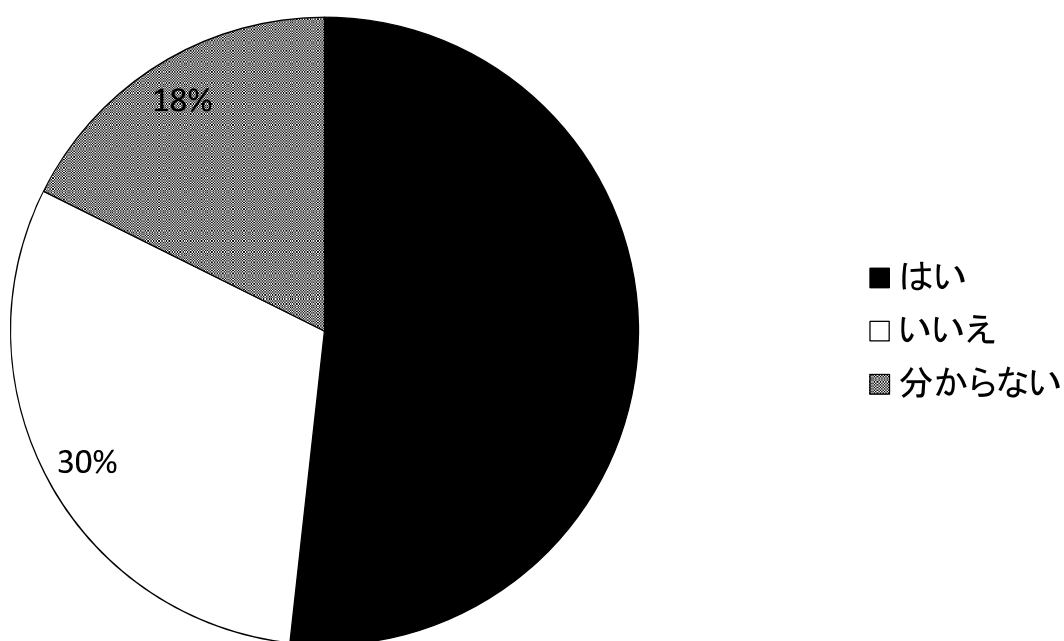
現在、歯科衛生士を雇用していない理由は



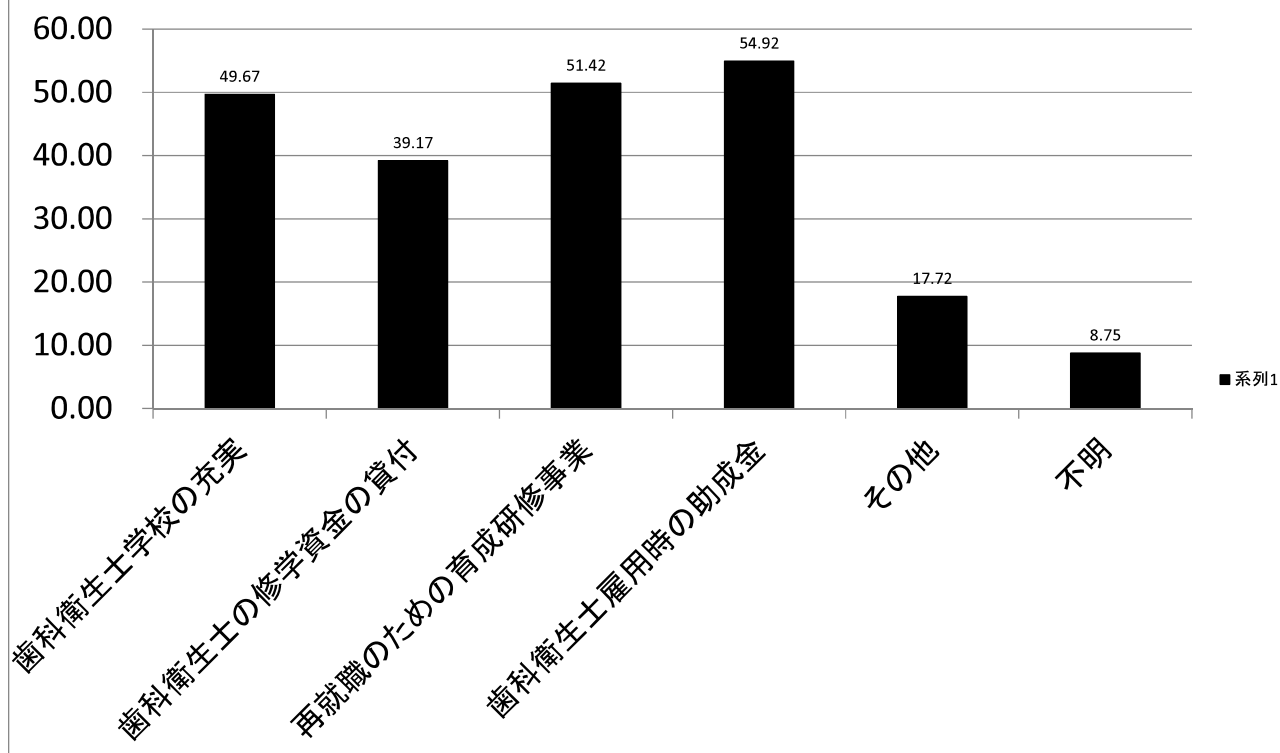
歯科衛生士を雇わないことで不安を感じることはありますか



歯科衛生士を雇用したいと思いますか



歯科衛生士雇用に向けよいと思う要望項目は





1番目



2番目

■表側：【Q4】現在地で開業後何年か 表頭：【Q10】歯科衛生士の雇用形態は？
 (各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。)

	X合計	常勤職員のみ	非常勤職員のみ	常勤職員と非常勤職員の混在	その他	不明
Y合計	481 100.0	194 40.3	66 13.7	126 26.2	4 0.8	91 18.9
1年未満	19 100.0	5 26.3	3 15.8	7 36.8		4 21.1
1～5年	112 100.0	36 32.1	24 21.4	25 22.3	2 1.8	25 22.3
6～10年	79 100.0	39 49.4	10 12.7	21 26.6		9 11.4
11～20年	141 100.0	62 44.0	17 12.1	34 24.1	1 0.7	27 19.1
21年超	126 100.0	51 40.5	11 8.7	39 31.0	1 0.8	24 19.0
不明	4 100.0	1 25.0	1 25.0			2 50.0

■表側：【Q4】現在地で開業後何年か 表頭：【Q15】歯科衛生士のどんな役割に期待していますか
 (各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。)

	X合計	TBIなど患者への指導	SPTなど歯周病の管理	患者への動機づけや情報共有	診療の補助	不明
Y合計	481 100.0	370 76.9	305 63.4	325 67.6	315 65.5	90 18.7
1年未満	19 100.0	16 84.2	13 68.4	16 84.2	12 63.2	3 15.8
1～5年	112 100.0	83 74.1	64 57.1	76 67.9	69 61.6	25 22.3
6～10年	79 100.0	67 84.8	52 65.8	54 68.4	51 64.6	9 11.4
11～20年	141 100.0	107 75.9	96 68.1	94 66.7	100 70.9	27 19.1
21年超	126 100.0	95 75.4	78 61.9	83 65.9	81 64.3	24 19.0
不明	4 100.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0

■表側：【Q4】現在地で開業後何年か 表頭：【Q16】歯科衛生士を雇用するメリットは
 (各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。)

	X合計	医療の安全性が高まる	医院の技術が高まる	施設基準の要件が満たせる	収益が高まる	多くの患者に対応できる	その他	不明
Y合計	481 100.0	276 57.4	274 57.0	213 44.3	170 35.3	321 66.7	40 8.3	92 19.1
1年未満	19 100.0	14 73.7	13 68.4	8 42.1	8 42.1	15 78.9	1 5.3	3 15.8
1～5年	112 100.0	54 48.2	55 49.1	42 37.5	37 33.0	79 70.5	6 5.4	24 21.4
6～10年	79 100.0	51 64.6	50 63.3	33 41.8	27 34.2	57 72.2	11 13.9	8 10.1
11～20年	141 100.0	85 60.3	84 59.6	72 51.1	59 41.8	92 65.2	12 8.5	28 19.9
21年超	126 100.0	71 56.3	71 56.3	56 44.4	38 30.2	77 61.1	10 7.9	27 21.4
不明	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0		2 50.0

■表側：【Q4】現在地で開業後何年か 表頭：【Q17】歯科衛生士を雇い続けるためには何が必要と思うか
 (各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。)

	X合計	歯科医院 の経営安 定	院内コミュニ ケーション	衛生士のス キルアップ教 育	福利厚生 拡充	衛生士の 拘束時間 の短縮	その他	不 明
Y合計	481 100.0	338 70.3	280 58.2	249 51.8	165 34.3	117 24.3	41 8.5	94 19.5
1年未満	19 100.0	13 68.4	10 52.6	11 57.9	4 21.1	4 21.1		4 21.1
1～5年	112 100.0	71 63.4	71 63.4	64 57.1	38 33.9	25 22.3	10 8.9	22 19.6
6～10年	79 100.0	58 73.4	55 69.6	38 48.1	27 34.2	21 26.6	3 3.8	9 11.4
11～20年	141 100.0	99 70.2	79 56.0	70 49.6	52 36.9	37 26.2	17 12.1	32 22.7
21年超	126 100.0	94 74.6	64 50.8	65 51.6	42 33.3	29 23.0	11 8.7	26 20.6
不 明	4 100.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0		1 25.0

■表側：【Q4】現在地で開業後何年か 表頭：【Q18】現在、歯科衛生士を雇用していない理由は
 (各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。)

	X合計	募集しても集まらない	医院の収入が低い	診療報酬が低い	必要性を感じない	その他	不明
Y合計	481 100.0	43 8.9	59 12.3	38 7.9	23 4.8	26 5.4	383 79.6
1年未満	19 100.0	1 5.3	2 10.5	2 10.5	1 5.3	1 5.3	15 78.9
1～5年	112 100.0	16 14.3	16 14.3	11 9.8	7 6.3	7 6.3	85 75.9
6～10年	79 100.0	1 1.3	7 8.9	2 2.5	2 2.5	1 1.3	70 88.6
11～20年	141 100.0	12 8.5	22 15.6	16 11.3	7 5.0	12 8.5	111 78.7
21年超	126 100.0	13 10.3	11 8.7	7 5.6	6 4.8	5 4.0	99 78.6
不明	4 100.0		1 25.0				3 75.0

■表側：【Q4】現在地で開業後何年か 表頭：【Q21】歯科衛生士雇用に向けよいと思う要望項目は
 (各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。)

	X合計	歯科衛生士学校の充実	歯科衛生士の修学資金の貸付	再就職のための育成研修事業	歯科衛生士雇用時の助成金	その他	不明
Y合計	481 100.0	236 49.1	188 39.1	248 51.6	268 55.7	84 17.5	41 8.5
1年未満	19 100.0	11 57.9	9 47.4	9 47.4	11 57.9	2 10.5	1 5.3
1～5年	112 100.0	54 48.2	39 34.8	57 50.9	63 56.3	12 10.7	10 8.9
6～10年	79 100.0	47 59.5	34 43.0	37 46.8	47 59.5	16 20.3	4 5.1
11～20年	141 100.0	64 45.4	58 41.1	73 51.8	77 54.6	30 21.3	14 9.9
21年超	126 100.0	60 47.6	48 38.1	71 56.3	68 54.0	24 19.0	11 8.7
不明	4 100.0			1 25.0	2 50.0		1 25.0

■表側：【Q1】年齢（集約） 表頭：【Q15】歯科衛生士のどんな役割に期待していますか
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	TBIなど患者への指導	SPTなど歯周病の管理	患者への動機づけや情報共有	診療の補助	不明
Y合計	481 100.0	370 76.9	305 63.4	325 67.6	315 65.5	90 18.7
30代未満	4 100.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0
30代	69 100.0	54 78.3	41 59.4	46 66.7	43 62.3	15 21.7
40代	176 100.0	146 83.0	123 69.9	129 73.3	121 68.8	23 13.1
50代	151 100.0	112 74.2	91 60.3	99 65.6	100 66.2	32 21.2
60代	47 100.0	36 76.6	29 61.7	29 61.7	30 63.8	8 17.0
70代	16 100.0	7 43.8	7 43.8	8 50.0	7 43.8	8 50.0
80以上	1 100.0				1 100.0	
不明	17 100.0	13 76.5	12 70.6	12 70.6	11 64.7	2 11.8

■表側：【Q1】年齢（集約） 表頭：【Q16】歯科衛生士を雇用するメリットは
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	医療の安全性が高まる	医院の技術が高まる	施設基準の要件が満たせる	収益が高まる	多くの患者に対応できる	その他	不明
Y合計	481 100.0	276 57.4	274 57.0	213 44.3	170 35.3	321 66.7	40 8.3	92 19.1
30代未満	4 100.0	2 50.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0
30代	69 100.0	36 52.2	38 55.1	23 33.3	31 44.9	52 75.4	8 11.6	15 21.7
40代	176 100.0	110 62.5	108 61.4	88 50.0	68 38.6	132 75.0	14 8.0	23 13.1
50代	151 100.0	87 57.6	86 57.0	67 44.4	46 30.5	92 60.9	11 7.3	33 21.9
60代	47 100.0	25 53.2	24 51.1	19 40.4	14 29.8	28 59.6	2 4.3	10 21.3
70代	16 100.0	6 37.5	6 37.5	5 31.3	4 25.0	6 37.5	1 6.3	8 50.0
80以上	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	1 100.0	
不明	17 100.0	9 52.9	10 58.8	8 47.1	5 29.4	9 52.9	2 11.8	1 5.9

■表側：【Q1】年齢（集約） 表頭：【Q17】歯科衛生士を雇い続けるためには何が必要と思うか
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	歯科医院 の経営安 定	院内コミュニ ケーション	衛生士のス キルアップ [®] 教 育	福利厚生 拡充	衛生士の 拘束時間 の短縮	その他	不 明
Y合計	481 100.0	338 70.3	280 58.2	249 51.8	165 34.3	117 24.3	41 8.5	94 19.5
30代未満	4 100.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0		2 50.0
30代	69 100.0	42 60.9	42 60.9	42 60.9	19 27.5	16 23.2	6 8.7	12 17.4
40代	176 100.0	127 72.2	119 67.6	93 52.8	74 42.0	48 27.3	15 8.5	29 16.5
50代	151 100.0	113 74.8	81 53.6	74 49.0	50 33.1	36 23.8	12 7.9	31 20.5
60代	47 100.0	33 70.2	19 40.4	23 48.9	13 27.7	9 19.1	5 10.6	11 23.4
70代	16 100.0	8 50.0	7 43.8	6 37.5	4 25.0	2 12.5	1 6.3	7 43.8
80以上	1 100.0	1 100.0				1 100.0		
不 明	17 100.0	13 76.5	11 64.7	9 52.9	4 23.5	4 23.5	2 11.8	2 11.8

■表側：【Q1】年齢（集約） 表頭：【Q18】現在、歯科衛生士を雇用していない理由は
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	募集しても集まらない	医院の収入が低い	診療報酬が低い	必要性を感じない	その他	不明
Y合計	481 100.0	43 8.9	59 12.3	38 7.9	23 4.8	26 5.4	383 79.6
30代未満	4 100.0		2 50.0	1 25.0	1 25.0	1 25.0	2 50.0
30代	69 100.0	9 13.0	5 7.2	5 7.2	4 5.8	4 5.8	55 79.7
40代	176 100.0	9 5.1	20 11.4	12 6.8	6 3.4	11 6.3	148 84.1
50代	151 100.0	15 9.9	23 15.2	15 9.9	7 4.6	9 6.0	117 77.5
60代	47 100.0	6 12.8	3 6.4	1 2.1	4 8.5		36 76.6
70代	16 100.0	3 18.8	5 31.3	3 18.8	1 6.3	1 6.3	8 50.0
80以上	1 100.0						1 100.0
不明	17 100.0	1 5.9	1 5.9	1 5.9			16 94.1

■表側：【Q1】年齢（集約） 表頭：【Q21】歯科衛生士雇用に向けよいと思う要望項目は
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	歯科衛生士学校の充実	歯科衛生士の修学資金の貸付	再就職のための育成研修事業	歯科衛生士雇用時の助成金	その他	不明
Y合計	481 100.0	236 49.1	188 39.1	248 51.6	268 55.7	84 17.5	41 8.5
30代未満	4 100.0	1 25.0	3 75.0	3 75.0	3 75.0	1 25.0	1 25.0
30代	69 100.0	40 58.0	23 33.3	32 46.4	37 53.6	9 13.0	7 10.1
40代	176 100.0	91 51.7	73 41.5	88 50.0	102 58.0	37 21.0	10 5.7
50代	151 100.0	67 44.4	59 39.1	77 51.0	81 53.6	22 14.6	15 9.9
60代	47 100.0	24 51.1	18 38.3	29 61.7	29 61.7	10 21.3	3 6.4
70代	16 100.0	7 43.8	6 37.5	11 68.8	7 43.8	2 12.5	
80以上	1 100.0		1 100.0				
不明	17 100.0	6 35.3	5 29.4	8 47.1	9 52.9	3 17.6	5 29.4

■表側：【Q7】被雇用者数・歯科衛生士（集約） 表頭：【Q15】歯科衛生士のどんな役割に期待していますか
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	TBIなど患者への指導	SPTなど歯周病の管理	患者への動機づけや情報共有	診療の補助	不明
Y合計	481 100.0	370 76.9	305 63.4	325 67.6	315 65.5	90 18.7
いない	58 100.0			1 1.7		57 98.3
1人	151 100.0	143 94.7	110 72.8	114 75.5	121 80.1	
2人	101 100.0	92 91.1	72 71.3	85 84.2	84 83.2	4 4.0
3人	70 100.0	62 88.6	55 78.6	57 81.4	50 71.4	4 5.7
4人	38 100.0	35 92.1	33 86.8	33 86.8	33 86.8	
5人	8 100.0	8 100.0	6 75.0	7 87.5	5 62.5	
6人	8 100.0	8 100.0	7 87.5	8 100.0	6 75.0	
7人	6 100.0	6 100.0	6 100.0	5 83.3	5 83.3	
8人	4 100.0	4 100.0	4 100.0	4 100.0	3 75.0	
9人	2 100.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	
10人	3 100.0	3 100.0	3 100.0	2 66.7	1 33.3	
10人以上	3 100.0	3 100.0	3 100.0	3 100.0	3 100.0	
不明	29 100.0	4 13.8	4 13.8	4 13.8	2 6.9	25 86.2

■表側：【Q7】被雇用者数・歯科衛生士（集約） 表頭：【Q16】歯科衛生士を雇用するメリットは
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	医療の安全性が高まる	医院の技術が高まる	施設基準の要件が満たせる	収益が高まる	多くの患者に対応できる	その他	不明
Y合計	481 100.0	276 57.4	274 57.0	213 44.3	170 35.3	321 66.7	40 8.3	92 19.1
いない	58 100.0					1 1.7		57 98.3
1人	151 100.0	106 70.2	96 63.6	86 57.0	64 42.4	119 78.8	8 5.3	2 1.3
2人	101 100.0	67 66.3	66 65.3	49 48.5	39 38.6	82 81.2	9 8.9	4 4.0
3人	70 100.0	45 64.3	55 78.6	37 52.9	32 45.7	56 80.0	10 14.3	2 2.9
4人	38 100.0	28 73.7	28 73.7	23 60.5	20 52.6	32 84.2	5 13.2	1 2.6
5人	8 100.0	5 62.5	6 75.0	3 37.5	3 37.5	7 87.5	4 50.0	
6人	8 100.0	6 75.0	6 75.0	1 12.5	1 12.5	5 62.5		1 12.5
7人	6 100.0	5 83.3	5 83.3	5 83.3	3 50.0	6 100.0	1 16.7	
8人	4 100.0	4 100.0	3 75.0	2 50.0	1 25.0	3 75.0	1 25.0	
9人	2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	
10人	3 100.0	2 66.7	2 66.7	2 66.7	3 100.0	2 66.7		
10人以上	3 100.0	3 100.0	3 100.0	3 100.0	1 33.3	2 66.7		
不明	29 100.0	3 10.3	2 6.9	1 3.4	1 3.4	4 13.8	1 3.4	25 86.2

■表側：【Q7】被雇用者数・歯科衛生士（集約） 表頭：【Q17】歯科衛生士を雇い続けるためには何が必要と思うか
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	歯科医院の経営安定	院内コミュニケーション	衛生士のスキルアップ教育	福利厚生拡充	衛生士の拘束時間の短縮	その他	不明
Y合計	481 100.0	228 70.3	280 58.2	249 51.8	165 34.3	117 24.3	41 8.5	94 19.5
いない	58 100.0	4 6.9	2 3.4	1 1.7		2 3.4		54 93.1
1人	151 100.0	127 84.1	90 59.6	73 48.3	44 29.1	36 23.8	16 10.6	8 5.3
2人	101 100.0	82 81.2	77 76.2	67 66.3	49 48.5	31 30.7	11 10.9	5 5.0
3人	70 100.0	58 82.9	51 72.9	49 70.0	32 45.7	26 37.1	5 7.1	3 4.3
4人	38 100.0	32 84.2	27 71.1	30 78.9	22 57.9	15 39.5	4 10.5	
5人	8 100.0	7 87.5	7 87.5	6 75.0	4 50.0	1 12.5		
6人	8 100.0	8 100.0	7 87.5	4 50.0	3 37.5	1 12.5		
7人	6 100.0	6 100.0	5 83.3	6 100.0	3 50.0	3 50.0	2 33.3	
8人	4 100.0	3 75.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0		1 25.0	1 25.0
9人	2 100.0	2 100.0	2 100.0	2 100.0	1 50.0	1 50.0		
10人	3 100.0	1 33.3	3 100.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3		
10人以上	3 100.0	3 100.0	3 100.0	3 100.0	2 66.7		1 33.3	
不明	29 100.0	5 17.2	4 13.8	4 13.8	3 10.3		1 3.4	23 79.3

■表側：【Q7】被雇用者数・歯科衛生士（集約） 表頭：【Q21】歯科衛生士雇用に向けよいと思う要望項目は
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	歯科衛生士学校の充実	歯科衛生士の修学資金の貸付	再就職のための育成研修事業	歯科衛生士雇用時の助成金	その他	不明
Y合計	481 100.0	236 49.1	188 39.1	248 51.6	268 55.7	84 17.5	41 8.5
いない	58 100.0	20 34.5	18 31.0	24 41.4	32 55.2	12 20.7	5 8.6
1人	151 100.0	75 49.7	57 37.7	73 48.3	76 50.3	22 14.6	12 7.9
2人	101 100.0	58 57.4	41 40.6	54 53.5	61 60.4	17 16.8	8 7.9
3人	70 100.0	36 51.4	27 38.6	44 62.9	37 52.9	11 15.7	3 4.3
4人	38 100.0	20 52.6	18 47.4	26 68.4	25 65.8	9 23.7	3 7.9
5人	8 100.0	6 75.0	3 37.5	4 50.0	4 50.0	3 37.5	1 12.5
6人	8 100.0	3 37.5	4 50.0	4 50.0	5 62.5	1 12.5	
7人	6 100.0	3 50.0	4 66.7	4 66.7	5 83.3	1 16.7	1 16.7
8人	4 100.0			3 75.0	2 50.0	1 25.0	1 25.0
9人	2 100.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	2 100.0		
10人	3 100.0	3 100.0	2 66.7	1 33.3	1 33.3		
10人以上	3 100.0	2 66.7	3 100.0	2 66.7	3 100.0		
不明	29 100.0	9 31.0	10 34.5	7 24.1	15 51.7	7 24.1	7 24.1

■表例：【Q7】被雇用者数・歯科衛生士（集約） 表頭：【Q11】歯科衛生士（常勤）の1日当たり拘束時間（集約）
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9～11時間未満	11時間以上	不明
Y合計	481 100.0			11 2.3	246 51.1	59 12.3	7 1.5	158 32.8
いない	58 100.0							58 100.0
1人	151 100.0			4 2.6	89 58.9	22 14.6	3 2.0	33 21.9
2人	101 100.0			4 4.0	63 62.4	13 12.9	1 1.0	20 19.8
3人	70 100.0			2 2.9	58 55.7	14 20.0	1 1.4	14 20.0
4人	38 100.0			1 2.6	37 71.1	4 10.5	1 2.6	5 13.2
5人	8 100.0				7 87.5	1 12.5		
6人	8 100.0				4 50.0	2 25.0	1 12.5	1 12.5
7人	6 100.0				6 100.0			
8人	4 100.0				3 75.0	1 25.0		
9人	2 100.0				2 100.0			
10人	3 100.0				3 100.0			
10人以上	3 100.0				1 33.3	2 66.7		
不明	29 100.0				2 6.9			27 93.1

■表側：【Q7】被雇用者数・歯科衛生士（集約） 表頭：【Q12】歯科衛生士（常勤）の週勤務日数（集約）
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	1日程度	2日程度	3日程度	4日程度	5日程度	6日程度以上	不明
Y合計	481 100.0			6 1.2	26 5.4	282 58.6	7 1.5	160 33.3
いない	58 100.0							58 100.0
1人	151 100.0			1 0.7	12 7.9	100 66.2	4 2.6	34 22.5
2人	101 100.0			1 1.0	8 7.9	70 69.3	1 1.0	21 20.8
3人	70 100.0			1 1.4	3 4.3	51 72.9	1 1.4	14 20.0
4人	38 100.0			3 7.9		20 78.9		5 13.2
5人	8 100.0					8 100.0		
6人	8 100.0				1 12.5	6 75.0		1 12.5
7人	6 100.0				1 16.7	5 83.3		
8人	4 100.0				1 25.0	3 75.0		
9人	2 100.0					2 100.0		
10人	3 100.0					2 66.7	1 33.3	
10人以上	3 100.0					2 100.0		
不明	29 100.0					2 6.9		27 93.1

■表例：【Q7】被雇用者数・歯科衛生士（集約） 表頭：【Q13】歯科衛生士（非常勤）の1日当たり拘束時間（集約）
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	3時間未満	3～5時間未満	5～7時間未満	7～9時間未満	9～11時間未満	11時間以上	不明
Y合計	481 100.0	6 1.2	64 13.3	55 11.4	44 9.1	14 2.9		298 62.0
いない	58 100.0							58 100.0
1人	151 100.0	2 1.3	15 9.9	9 6.0	9 6.0	1 0.7		115 76.2
2人	101 100.0	3 3.0	16 15.8	10 18.8	11 10.9	5 5.0		47 46.5
3人	70 100.0		15 21.4	13 18.6	10 14.3	6 8.6		26 37.1
4人	38 100.0	1 2.6	8 21.1	5 13.2	10 26.3	1 2.6		13 34.2
5人	8 100.0		4 50.0		1 12.5	1 12.5		2 25.0
6人	8 100.0		3 37.5	2 25.0				3 37.5
7人	6 100.0		1 16.7	2 33.3				3 50.0
8人	4 100.0		1 25.0	1 25.0				2 50.0
9人	2 100.0			1 50.0	1 50.0			
10人	3 100.0			2 66.7	1 33.3			
10人以上	3 100.0		1 33.3	1 33.3				1 33.3
不明	29 100.0				1 3.4			28 96.6

■表側：【Q7】被雇用者数・歯科衛生士（集約） 表頭：【Q14】歯科衛生士（非常勤）の週勤務日数（集約）
 （各項目の1行目はサンプル数、2行目は横%。）

	X合計	1日程度	2日程度	3日程度	4日程度	5日程度	6日程度以上	不明
Y合計	481 100.0	31 6.4	34 7.1	44 9.1	44 9.1	27 5.6	2 0.4	299 62.2
いない	58 100.0							58 100.0
1人	151 100.0	9 6.0	4 2.6	6 4.0	11 7.3	6 4.0		115 76.2
2人	101 100.0	7 6.9	12 11.9	10 9.9	13 12.9	10 9.9	1 1.0	48 47.5
3人	70 100.0	7 10.0	11 15.7	12 17.1	10 14.3	4 5.7		26 37.1
4人	38 100.0	5 13.2	5 13.2	6 15.8	4 10.5	5 13.2		13 34.2
5人	8 100.0		2 25.0	2 25.0		1 12.5	1 12.5	2 25.0
6人	8 100.0			3 37.5	2 25.0			3 37.5
7人	6 100.0				3 50.0			3 50.0
8人	4 100.0			2 50.0				2 50.0
9人	2 100.0	1 50.0		1 50.0				
10人	3 100.0	1 33.3		1 33.3		1 33.3		
10人以上	3 100.0	1 33.3			1 33.3			1 33.3
不明	29 100.0			1 3.4				28 96.6

「その他」欄

7.のその他欄

- ・ クリニックの成長度合いの可視化（医院の可視化）
- ・ 医院が確固たる理念を持ってそれをきちんと遂行している（医院理念）
- ・ 歯科衛生士本人の職業意識（意識改革）
- ・ 絶対数を少なくすること（衛生士数）
- ・ 歯科衛生士の人数を増やす！（衛生士数）
- ・ 歯科衛生士の業務範囲について。「しぼり」を規制緩和して看護師並みにしてあげたい（業務範囲）
- ・ 衛生士の診療範囲の拡大（業務範囲）
- ・ 歯科衛生士のやりがいを見出す職場環境、雇用条件（就業環境の向上）
- ・ 能力に適した十分な給与（就業環境の向上）
- ・ 産休、育休に対応（就業環境の向上）
- ・ 時間短縮と支払費用（就業環境の向上）
- ・ 賃金のアップ（就業環境の向上）
- ・ 医院の雰囲気（就業環境の向上）
- ・ 子育て環境のバックアップ（就業環境の向上）
- ・ 給料の充実（就業環境の向上）
- ・ 子育て中の衛生士には勤務時間の希望に柔軟に対応する（就業環境の向上）
- ・ 洗浄、滅菌の充実、労働環境の改善（就業環境の向上）
- ・ 待遇をよくする（就業環境の向上）
- ・ 雇用者（歯科医師）の品格（歯科医師の力量）
- ・ 歯科医師の力量！！（歯科医師の力量）
- ・ 妥協と忍耐（歯科医師の力量）
- ・ 実労している衛生士の絶対的な不足をまず解消。（歯科衛生士数の増加）
- ・ 歯科衛生士数増加また地方格差の是正（歯科衛生士数の増加）
- ・ 歯科衛生士が足りていないので数人を増やす必要あり。かといって給料を吊り上げない。

（歯科衛生士数の増加）

- ・ 各々の人格を尊重する。（人格尊重）
- ・ 院内の若返り（その他）
- ・ 患者側のデンタル IQ 向上（その他）
- ・ 口腔ケアの実施と管理（その他）
- ・ 楽しい職場であり続けること（楽しい職場）
- ・ 患者さんへの歯周治療の充実（治療の充実）
- ・ 保険点数の増加（点数増加）
- ・ 保険点数アップが必要（点数増加）
- ・ 予防歯科への点数の貼り付け（PMTC への点数等）（点数増加）
- ・ 得意分野を任せる（モチベーション）
- ・ 本人のモチベーション（モチベーション）
- ・ 人間力の向上（能力向上）
- ・ 再就職時のフォローアップ（フォローアップ）
- ・ 衛生士が興味を持てるように歯科医も勉強する。（勉強）
- ・ 有給の法令への理解と実施（法令順守）
- ・ 労働基準法の遵守（法令順守）
- ・ モチベーションの向上維持（モチベーション）
- ・ 本人自覚、医院スタッフとしての責任感。（モチベーション）
- ・ やりがいを与えること（やりがい）
- ・ 担当患者などのやりがい。（やりがい）
- ・ 仕事にプライドを持たせること。（やりがい）
- ・ 衛生士としての仕事の喜びを分らせること。（やりがい）
- ・ 歯科衛生士本人のモチベーション（モチベーション）
- ・ 歯科衛生士と医師の自覚ミーティング。衛生士学会の参加（モチベーション・研修機会）

8.のその他欄

- ・ 3年生卒の人をどう使っているのか分からない（3年制の扱い）
- ・ ユニットが足りない（雇用環境）

- ・ 診療所が狭くてもう一人は難しい(雇用環境)
- ・ 衛生士の質が悪い(歯科衛生士の質)
- ・ 技術的にあまり能力がないのにお金だけの要求は高い人が多い。(歯科衛生士の質)
- ・ 歯科医師(自分)がスケーリング、SRPをしてきたので、これ以上の技術の衛生士は雇えないと思う。(歯科衛生士の質)
- ・ 歯科医師のスキルが低い。(歯科衛生士の質)
- ・ 勤務意欲がない。社会研修についていけない。(歯科衛生士の質)
- ・ 実際に動ける人の方が現場には必要だから。(歯科衛生士の質)
- ・ 良い人材がない。(歯科衛生士の質)
- ・ 衛生士とは名ばかりでプライドだけ高く何もできない人が多い。(歯科衛生士の質)
- ・ 仕事ができない歯科衛生士が多い(技術不足・勉強不足)(歯科衛生士の質)
- ・ 就業時間や雇用形態に対して希望が多くて使用しにくい(歯科衛生士の質)
- ・ あまりに衛生士が不足して次の就職先がすぐ見つかるのですぐやめていく。(歯科衛生士の質)
- ・ レベルの低い人が多い。(歯科衛生士の質)
- ・ 逃げられた。(その他)
- ・ 法人の方針(その他)
- ・ 夫婦で歯科医師、妻が衛生士業務できるため(妻が衛生士)
- ・ 妻が衛生士とともに仕事をしている。(妻が衛生士)
- ・ 人件費が高い。コスト対効果が割に合わない(費用が高い)
- ・ 人件費をかけられない。(費用が高い)
- ・ 平均給与が高すぎる(費用が高い)
- ・ メンテナンスの患者数が多くないと経営的に成り立たない。(費用が高い)
- ・ 患者数が少ないので、自分でやってしまった方が経費削減になる(費用が高い)

11.のその他欄

- ・ 2年制に戻すのか2年制、1年制の新設を考えてほしい。(2年制に戻す)
- ・ 3年→2年に戻す。正看護学校と同じではみんなそちらに行く。(2年制に戻す)
- ・ 夜間学校で2年制に戻すこと(2年制に戻す)
- ・ 3年生→2年制へ戻す。(2年制に戻す)
- ・ 2年制の方が学生が集まると思う。(2年制に戻す)
- ・ 研修期間を2年に戻すこと。(2年制に戻す)
- ・ 1~2年での卒業。3年は長すぎ。夜間だけの資格取得。(2年制に戻す)
- ・ 衛生士学校2年制に戻す。3年生になり一般的には不人気になっている。(2年制に戻す)
- ・ 2年制に戻しては?衛生士不足の1つの原因では?(2年制に戻す)
- ・ 歯科衛生士学校1~2年に戻す。歯科衛生士数を増やす。学士は衛生士学校を1年生認める。(2年制に戻す)
- ・ 2年制を3年制にしたためますます少なくなってしまった。(2年制に戻す)
- ・ 衛生士学校は3年もいらぬ。2年で十分。(2年制に戻す)
- ・ 夜間学校の拡充。3年生→1年制への移行(夜間・1年制にする)
- ・ 先生や院長、理事長などの意識改革(医院の意識改革)
- ・ 歯科医療機関の経営基盤の強化がまず必要かと思えます。(医院の経営基盤の強化)
- ・ 経営改善(医院の経営基盤の強化)
- ・ 夜間や日曜日診療をしなくても、経営が安定すること(医院の経営基盤の強化)
- ・ 歯科医院の経営安定(医院の経営基盤の強化)
- ・ 衛生士学校と臨床現場とのより密接なタイアップができれば(衛生士学校との連携)
- ・ 歯科医院と学校のつながり。たとえば実習受け入れ等(衛生士学校との連携)
- ・ 学校教育の充実→衛生士の資質の向上(学校

- 教育の充実)
- ・ 衛生士の業務の充実。魅力ある職業として。
(業務の充実)
- ・ 職域の拡大。権限の増加(業務範囲の拡大)
- ・ 歯科衛生士の業務範囲の拡充・拡大の推進(業務範囲の拡大)
- ・ 業務内容の拡充(業務範囲の拡大)
- ・ 歯科衛生士の医療行為の拡大のための法の改正が必要と思う。(業務範囲の拡大)
- ・ 歯科衛生士の職務内容の拡大(業務範囲の拡大)
- ・ 業務拡大への法的整備(業務範囲の拡大)
- ・ 歯科衛生士の法律での業務拡大(業務範囲の拡大)
- ・ 業務範囲の見直し(業務範囲の拡大)
- ・ 歯科治療領域の拡大。(浸麻、根管消毒など)差支えない範囲で。(業務範囲の拡大)
- ・ 第1に経営の安定、第2に衛生士数の確保。そのためには医療費抑制の現在では何も期待できない。(経営の安定・衛生士の確保)
- ・ 衛生士学校を出ても仕事はほかのことという人が多い。衛生士の仕事が面白いことをどこかで教える必要あり。(啓蒙)
- ・ 高校生への職業理解を深める。(啓蒙)
- ・ 歯科衛生士学校で職業の必要性をしっかりと教育することが重要(啓蒙)
- ・ 歯科衛生士という職業の啓蒙活動(啓蒙)
- ・ 不足していることを世にアピールするのはどうでしょう?(啓蒙)
- ・ 衛生士業の啓蒙(啓蒙)
- ・ 歯科衛生士という職業を高校生に広く周知する。(啓蒙)
- ・ 最近の歯科衛生士学校の入学者は高卒直後の人より就職経験者、大卒などが多いと聞いています。もっと衛生士という仕事を一般に広め就職率がいいことなど広めれば、衛生士数が多くなり、雇用も楽になると思います。(啓蒙)
- ・ 高校の進路指導の先生等への宣伝(啓蒙)
- ・ 歯科衛生士の役割の重要性を周知すること。
(啓蒙)
- ・ 歯科衛生士の人材を生かす歯科医師の能力とキャパシティがなければどのような衛生士も育たないのではないのでしょうか。優秀な歯科医師の育成が先決だと考えます(歯科医師の力量アップ)
- ・ 歯科衛生士自体の数を増やす(歯科衛生士数の増加)
- ・ 人数を増やす(歯科衛生士数の増加)
- ・ 歯科衛生士への医療法人としての社会人としての倫理と責任感の教育(歯科衛生士の教育)
- ・ 人間性の向上→雇用したいと思う。(歯科衛生士の教育)
- ・ 歯科衛生士自身の資質向上(歯科衛生士の教育)
- ・ 衛生士の学力・能力、人間力の向上(歯科衛生士の教育)
- ・ 論点がズレていますが雇用がないのは衛生士側にも問題があると思います。衛生士は「資格がある」というだけで仕事もろくにできないのに高給を要求してくる。そうした衛生士の意識改革を行い本当に仕事ができる人だけに雇用を充実させる。(歯科衛生士の教育)
- ・ 歯科の質を向上させるためには衛生士が不可欠だと思います。衛生士という職をみんなでどうやってあげてを考えるべきだと思います。
(歯科衛生士の教育)
- ・ ますます思い上がらせるだけだと思います。「意識改革セミナー」など歯科衛生士は楽で稼げる仕事だという概念を改めるきっかけ作りが必要だと思います。(歯科衛生士の教育)
- ・ 能力の向上(歯科衛生士の教育)
- ・ とにかく医院収入が今のように低くては衛生士さんを雇用できない。(歯科衛生士の教育)
- ・ 歯科衛生士教育の改革、改革。新卒歯科衛生士は白衣を着るという自覚のない歯科衛生士

ばかり。(歯科衛生士の教育)

- ・産休、育休機関の代替歯科衛生士さんを紹介してくれるところ。(歯科衛生士の就労斡旋)
- ・近隣衛生士学校への歯科医院サイドからのガイダンス会の実施(歯科衛生士の就労斡旋)
- ・都による就職のあっせん(歯科衛生士の就労斡旋)
- ・登録制・データベース化(歯科衛生士の就労斡旋)
- ・協会内の就活センターの設置(歯科衛生士の就労斡旋)
- ・勤務している歯科助手が就業しながら歯科衛生士免許が取得できるシステムが必要。(就学への援助)
- ・衛生士業務に専念させるために他のスタッフの教育(スタッフの教育)
- ・歯科全般の底上げ(底上げ)
- ・DHの卒後研修。(卒後研修)
- ・給与を高くする(夢が持てる)(待遇改善)
- ・結婚出産にて仕事をやめた衛生士が再び働くことができるよう助成する。保育の充実と再研修。(待遇改善)
- ・接遇や意識を高める。(待遇改善)
- ・給与を含めた待遇の改善。時間や仕事含む(待遇改善)
- ・歯科助手勤務実績に応じた歯科衛生士国家試験受験資格の付与。(他資格の付与)
- ・実地指の点数アップ。80点じゃ雇えないよ。(点数の増加)
- ・歯科衛生士がいることにより算定できる点数の増加。本当に一生懸命やっている歯科衛生士もいます。あの頑張りである点数は低いと思います。(点数の増加)
- ・歯科衛生士雇用点数の加算(点数の増加)
- ・実地指の増点(点数の増加)
- ・衛生管理以外にも衛生士の行ったもののレセプトでの点数化。(点数の増加)
- ・各医療機関の保険の収入が増えないと雇用で

きない。(点数の増加)

- ・保険点数UP→歯科衛生士への給与UP(点数の増加)
- ・せめて初級公務員並みに給与を出したい。平均年収730万円。(点数の増加)
- ・本人によって条件を高くしてくる。費用の面で病院困る。出勤日について病院困る。(費用が高い)
- ・歯科衛生士学校へ補助金を出し授業料を下げてもらおう(看護学校に比べて授業料が高いようです)(補助による授業料の減額)
- ・今、衛生士学生が集まらないといわれている。衛生士学校が閉鎖しようとしている。歯科技工士もしかり結論として魅力のない職場と思われているのが根本問題。(魅力のない職場)
- ・雇用したくても人材不足を感じます。雇用側にもメリットがないとなかなか雇えないのでは。(雇えない)
- ・小さな歯科医院でも可能な歯科衛生士学校通学のための奨学金制度等(奨学金制度)
- ・歯科衛生士の雇用を義務付ける(歯科衛生士の雇用義務付け)
- ・男性の衛生士(その他)
- ・大きな診療所に多数集まる個人病院にはなかなかできない。給料のつり上げでエスカレートしすぎる。(その他)
- ・ハローワークでは新卒採用すると助成金が出る。(その他)
- ・実地指の際の文書交付をなくす(算定要件緩和)
- ・歯科衛生士がもっとプライドの持てるよう研修機関が多くあるとよい(研修機会の増加)
- ・研修会の相互連絡会(研修機会の増加)
- ・TBIやSCの点数を今の3倍以上に(点数の増加)